

# 婦人保護施設(アベニール福岡)

## 個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	24
施設所管課	男女共同参画推進課

令和3年2月

❀福岡県❀

婦人保護施設(アベニール福岡)  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	婦人保護施設(アベニール福岡)		
所 管	人づくり・県民生活部男女共同参画推進課		
整 理 番 号	24	竣 工 年 度	平成 29 年度
所 在 地	特別施設により掲載不可		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	2,106.65	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	801.75
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	1,477.33
主 要 建 築 物	アベニール福岡		
駐 車 場 台 数	(公用) 10 台		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	アベニール福岡				
棟 番 ・ 枝 番	208	-	1	竣 工 年 度	平成 29 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	801.75		延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	1,477.33	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 2 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積(m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
2F	718.65	居室等			
1F	758.68	事務室、食堂、居室等			

婦人保護施設(アベニール福岡)は平成29年度に竣工しました。

婦人保護施設として、保護を必要とする女性が入所する施設です。入所者の心身のケアや社会で自立した生活を送ることができるようになるための支援を行っています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図

特別施設により掲載不可

②施設写真

全景

特別施設により写真不可

## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築3年で新築の建物であるため、計画期間中の更新は計画していません。

### (2) 施設内での優先順位

施設としては鉄筋コンクリート造りによる一般的な建物です。  
新築であるため、この計画期間内における改修は行う必要がありません。

### (3) その他

敷地内にはアベニール福岡のみが立地しています。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

全体的に良好な状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

現存率算定表

施設名称	婦人保護施設(アベニール福岡)		建物名称	本館・事務室				
所在地	特別施設により掲載不可		棟番・枝番	209	-	1	築年数	1年
建築年度	平成29年度	建築面積	801.75 m <sup>2</sup>		現存率	100.0	想定耐用年数	65年
構造・階数	RC 2	延面積	1,477.33 m <sup>2</sup>					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	RC	1	100.0		40.00	
	小計						40.00	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水押さえ コンクリート	1	100.0		20.00	
	外壁	20	複層塗装仕上げ・PS ボード・コンクリート打放し	1	100.0		20.00	
	小計						40.00	
電気設備	受変電設備	10		1	100.0		10.00	
	小計						10.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		1	100.0		10.00	
	小計						10.00	
合計							100.00	

この結果、婦人保護施設(アベニール福岡)の現存率は、「100.0」となります。

※平成30年度調査時のデータを記載しています。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>1</sup>	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	アスファルト防水押さえコンクリート	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	複層塗装仕上げ	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	GL工法 クロス貼	100.0	劣化	特に問題なし
天井	LGSクロス	100.0		
床	フローリング 畳	100.0		
建具	アルミ 木製	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

<sup>1</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	100.0	経年（新設後更新後）	経年5年未満
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年未満
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年5年未満
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年未満
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年未満
消火設備	消化設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満
エレベーター 設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—



(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2017	3	新	—	—	—	—	65 年

築1年と新しく、建物の状態も良好であるため、婦人保護施設（アベニール福岡）の目標耐用年数を原則どおり65年（残年数を62年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築3年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は62年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う必要はありません。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなります。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の子算や事業費等とは異なります。